

ASIAN AND MIDDLE EASTERN STUDIES TRIPOS Part IB

Japanese Studies

---

---

**J.7 LITERARY JAPANESE**

*Answer BOTH sections and ALL questions*

*Write your number **not** your name on the cover sheet of each Answer Book.*

**STATIONERY REQUIREMENTS**

*20 Page Answer Book x 1*

*Rough Work Pad*

**SPECIAL REQUIREMENTS**

*none*

**You may not start to read the questions  
printed on the subsequent pages of this  
question paper until instructed that you may  
do so by the Invigilator.**

## SECTION A

1 Translate the following passage from an unseen text into **English**, adding notes where you think they are needed. The footnotes are for reference only. Do not forget the vocabulary items below. [20 marks]

## (十二段)

むかし、おとこ有けり。人のむすめをぬすみて、武蔵野へ率て行

くほどに、ぬす人なりければ、国の守にからめられにけり。女をば  
草むらのなかにをきて、逃げにけり。道來る人、「この野はぬす人  
あなり」とて、火つけむとす。女、わびて、

17 武蔵野は今日はな焼きそ若草のつまもこもれり我もこもれり  
とよみけるを聞きて、女をばとりて、ともに率ていにけり。

りとして、この女のもとにいひつかはしける」とある。忠幹は天曆年間(会甲壬午)に駿河守となった人である。伊勢物語は数次にわたって増補されながら現在の形に至ったが、この段はもつとも遅い時期に補入されたといえよう。

## 十二段

三 歴とした家の娘を、親に無断で連れ出して。六段にも「盗み出でて」とあった。娘と合意のかけおちである。

一 客観的には娘を誘拐した犯人にちがいないのだから。二 国司の配下の追手によって捕縛された。

三 以下、その間の経緯を語る。四 追手の者。

五 盗人がいるような「あなり」は「あんなり」の撥音無表記の形。

六 困りはてて。窮地に追いつめられての堪えがたさから、歌をもって訴嘆することになる。

17 武蔵野は、今日は野焼しないでください。私の夫も隠れているし、また私も隠れているのだから。

「若草の」は「つぎ」の枕詞。七 女を捕えて。

八 別の所で捕えた男とともに。

※古今集・春上には「春日野は今日はな焼きそ若草のつまもこもれり我もこもれり」の歌が、「題知らず」説人に知らずにおさめられる。野焼という農耕行事を背景に村の若い男女の恋を謳歌する民謡であったか。「春日野」を「武蔵野」に改めて東国話評のなかに組み入れたのである。

Ise monogatari, section 12 (SNKBZ 17), pp. 91-92

からむ capture and tie up  
侘ぶ=思い悩む

あなり=あるようだ  
こもる=中に入っている

2 Translate the following passage from an unseen text into **English**, adding notes where you think they are needed. The footnotes are for reference only. Do not forget the vocabulary items at the end on page 4. [25 marks]

(第五十二段)

仁和寺なる法師、年寄るまで石清水を拜まざりければ、心憂く覺えて、ある時思立ちて、たゞひとり徒歩よりまうでけり。極楽寺、高良などを見て、「かばかりと心えて、帰にけり。扱、かたへの人にあひて、「年ごろ思ひつること、果し侍ぬ。聞きしにも過ぎて、尊くこそおはしけれ。そも、まいりたる人ごとに、山へ登りしは、何事かありけむと、ゆかしかりしかど、神へまいるこそ本意なれと思ひて、山までは見ず」とぞ言ひける。少しのことにも先達はあらまほしきことなり。

第五十二段 石清水八幡宮の撰社を本社と誤認して、誤りに気付かなかつた、独り合点の仁和寺の法師の話。  
 四 京の西、大内山の南麓にある。  
 五 石清水八幡宮。現、京都府八幡市の男山の頂上にある。

六 残念に思つて。石清水八幡宮は神仏習合が著しい社だつたから僧侶の参詣を拒むことはない。  
 七 徒歩で。  
 八 男山の東北麓にあつた石清水八幡宮の別当寺。  
 九 高良神社。男山の東北麓にある石清水八幡宮の撰社。  
 一〇 石清水八幡宮はこれらだけだと早合点して。  
 一一 朋輩に向かつて。「あひては、向かつての意。「後テモ」(統古事談)。  
 一二 多年の念願を果たしました。  
 一三 噂に聞いた以上に荘厳でいらつしやつた。  
 一四 それにしても、参詣した人々がいずれも。  
 一五 男山をさす。男山では頂上を山上、麓を山下(下)と言つた。  
 一六 知りたかつたけれども。  
 一七 案内者はあつてほしいものである。

Tsurezuregusa, section 52 (SNKBZ 39), pp. 128-9

法師 monk 拜む worship, pray 心憂し regrettable 徒歩 on foot  
 まうづ visit a temple 年ごろ=長年 ゆかし appealing, attractive, interesting  
 先達 a guide

(TURN OVER)

## SECTION B

3 Translate the following passage from a seen text into **English** adding notes where you think they are needed: [15 marks]

予、モノノ心ヲ知レリシヨリ、四十アマリノ春秋ヲ送レルアヒタ  
ニ、世ノ不思議ヲ見ル事、ヤ、タビ／＼ニナリヌ。去安元三年四  
月廿八日カトヨ。風ハゲシク吹キテシヅカナラザリシ夜、戌ノ時  
許、都ノ東南ヨリ火出テ来テ西北ニイタル。果テニハ、朱雀門・

大極殿・大学寮・民部省ナドマデ移リテ、一夜ノウチニ塵灰トナ  
リニキ。火本ハ樋口宮ノ小路トカヤ。舞人ヲヤドセル飯屋ヨリ出デ  
来リケルトナン。吹キマヨフ風ニトカク移リユクホドニ、扇ヲ広  
ゲタルガゴトク未広ニナリヌ。遠キ家ハ煙ニムセビ、近キアタリハ  
ヒタスラ燦ヲ地ニ吹キツケタリ。空ニハ灰ヲ吹キタテタレバ、火  
ノヒカリニ映ジテアマネク紅ナル中ニ、風ニ堪エズ吹キ切ラレタル  
焰、飛ガ如クシテ二町ヲコエツ、移リユク。其中ノ人、ウツシ  
心アラムヤ。或ハ煙ニムセビテ倒レ臥シ、或ハ焰ニ眩レテタチマチ  
ニ死ヌ。或ハ身ヒトツ辛ウシテ遁ル、モ、資財ヲ取出ルニ及バズ。  
七珍万宝サナガラ灰燼トナリニキ。其ノ費エイクソバクゾ。其ノ  
タビ、公卿ノ家十六焼ケタリ。マシテ、其外カゾヘ知ルニ及バズ。  
惣テ、都ノウチ三分ガ一二及ベリトゾ。男女死ヌルモノ數十人。  
馬牛ノタグヒ辺際ヲ不知。人ノイトナミ皆愚カナルナカニ、サシモ  
危キ京中ノ家ヲツクルトテ、財ヲ費ヤシ心ヲナヤマス事ハ、スグ  
レテアヂキナクゾ侍ル。

4 Explain the textual mechanisms applied in *Nise monogatari* as contrasted with *Ise monogatari*. Give specific examples from the first sections of *Nise monogatari* and *Ise monogatari* (see the two passages below) when discussing the textual mechanisms. Also, explain the cultural context in which these mechanisms were applied and why they were used. [25 marks]

## (一段)

むかし、おとこ、うぬかうぶりして、平城の京、春日の里にしるよしして、狩に往にけり。その里に、いとなまめいたる女はらから住みけり。このおとこ、かいまみてけり。おもほえず、古里にいとはしたなくてありければ、心地まどひにけり。おとこの着たりける狩衣の裾を切りて、歌を書きてやる。そのおとこ、しのぶずりの狩衣をなむ着たりける。

1 春日野の若紫のすり衣しのぶのみだれ限り知られず

となむ、をいつきていひやりける。ついでおもしろきことともや

思けん、

2 みちのくの忍もぢずり誰ゆへにみだれそめにし我ならなくに

といふ歌の心ばへなり。昔人は、かくいちはやきみやびをなんしける。

*Ise monogatari* (SNKBZ 17), pp. 79-80.

(TURN OVER)

(一) をかし、男、頬被りして、奈良の京春日の里へ、酒飲みに行きけり。その里にいと生臭き魚、腹赤といふ有けり。此男、買ふて見にけり。おもほえず、古巾著に、いとほした錢もあらざりければ、心地まどひにけり。男の著たりける借り著る物を脱ぎて、魚の價にやる。其男、澁染の著る物をなむ著たりける。



春日野の魚に脱ぎし借り著る酒飲みたれば寒さ知られずとなむ。又つぎて飲みけり。酔て、面白き事ども

や思ひけん。

道すがらしどろもちずり足元は亂れそめにし我奈良酒に

といふ歌の心ばへなり。昔人は、かくいらちたる飲みやうをなんしける。

5 Translate the following passage from a seen text into **English** adding notes where you think they are needed: [15 marks]

六 一休閑の地藏くやうし給ふ事

閑まの地藏ぢざうをはじめて作りし時、所の人々よりあひ、「此閑眼かいらんをば、いかなる御僧ごそうにかたのむべし」と、皆々口々に評定ひやうていしけるに、其中そのに一人申けるは、「我等今度都このたび一見仕りし時、京童きやうどうのいひしは、『今の代には紫野の一休にまさる僧はあらず』と申ける。いざやこれほどの地藏をこしらへ、よのつねの僧に頼まむより、一休和尚を請いすべし」といひければ、おのく「然るべし」とて、はや都のむらさき野へといそぎける。